

ふ・れあひ

2014
7月・夏号

Human♥Communication

Vol.17

人と心に響き合う

清恵会グループ広報誌

FREE

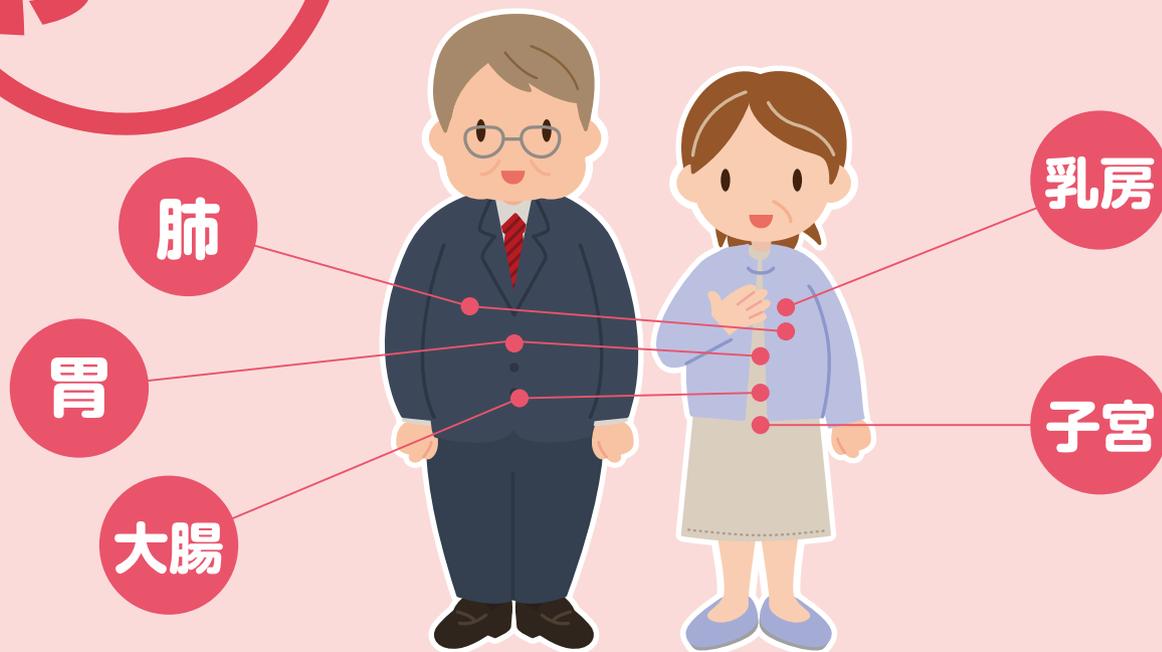
ご自由にお持ちください

特集

早期発見

がんは
日本人の国民病

がん



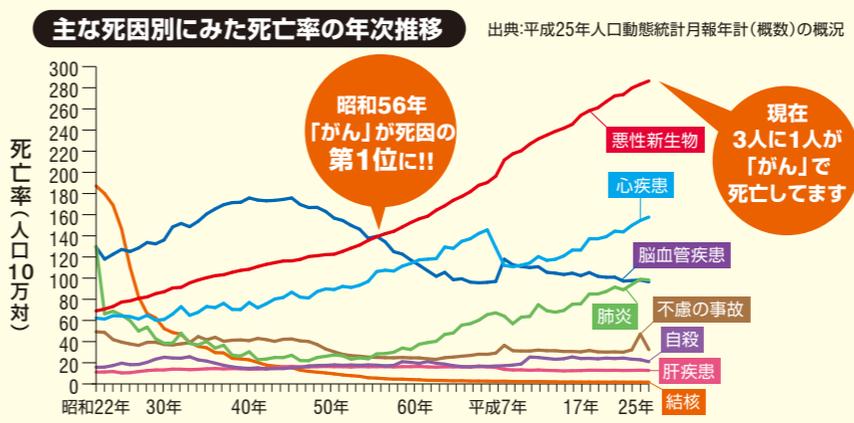
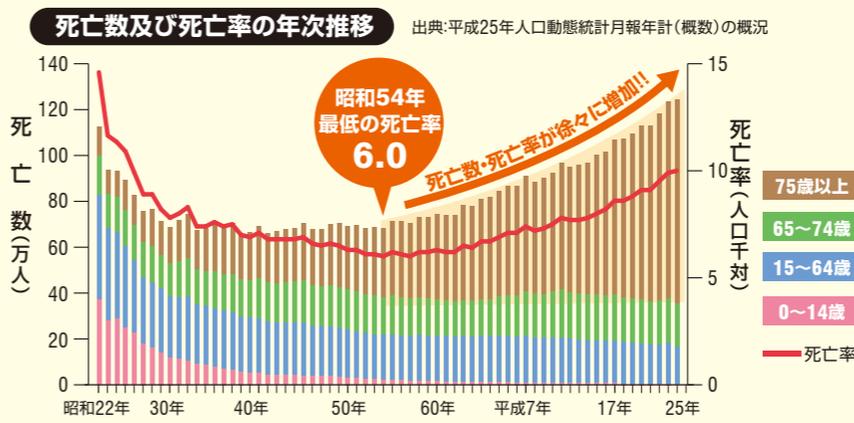
健康と美容のワンポイント!アドバイス
「50歳からの婦人科の病気」

社会医療法人 清恵会

早期発見

「がんは日本人の国民病」

この言葉は、厚生労働省がホームページに載せているフレーズです。日本人の平均寿命はどんどん延びて、2012年では男性80・0歳、女性86・4歳となりました。しかし、同時に、昭和54年に最低となった死亡数や死亡率はその後、徐々に増加しています。さて、それでは、どのような死亡の原因(死因)が増えているのでしょうか。



国民の3人に1人ががんで亡くなっています

清恵会病院 院長
北岡 治子

大阪医科大学卒業。日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本内分秘学会専門医・指導医ほか資格多数。糖尿病に関する著書を手がけるなど幅広く活動。病院運営の傍ら臨床現場にも立つ。大阪医科大学臨床教育教授。



実は、ちょうど死亡率が最低となったすぐ後の昭和56年から、がんが死因の第1位になり、現在では、年間30万人以上の人が、がんで亡くなっているのです。これは、3人に1人ががんによって亡くなっていることとなります。また、生涯のうちにかんにかかる可能性は、男性の2人に1人、女性の3人に1人と推測され、日本人にとって「国民病」といつても過言ではない状況になっています。さて、ではどのようながんが多いのでしょうか。全年齢で見た死亡率は、男性では、1位は肺がん、2位は胃がん、3位は大腸がん、女性では、1位は大腸がん、2位は肺がん、3位は胃がんとなっています。胃がんは横ばいとな

なっていますが、他のがんは少しずつも年々増加しています。さらに、各年代で特徴があり、男性は高齢者で前立腺がんが、女性は中年で乳がんによる死亡が多いことがわかります。

また、どのようながんになる人が多いのか(罹患率)を全年齢で見ると、男性では、1位は胃がん、2位は肺がん、3位は大腸がん、4位は前立腺がん。女性では、1位は乳がん、2位は大腸がん、3位は胃がん、4位は子宮がんとなっています。いずれのがんも増加傾向にあります。年代別の特徴として、男性は高齢者で特に肺がんや前立腺がんが

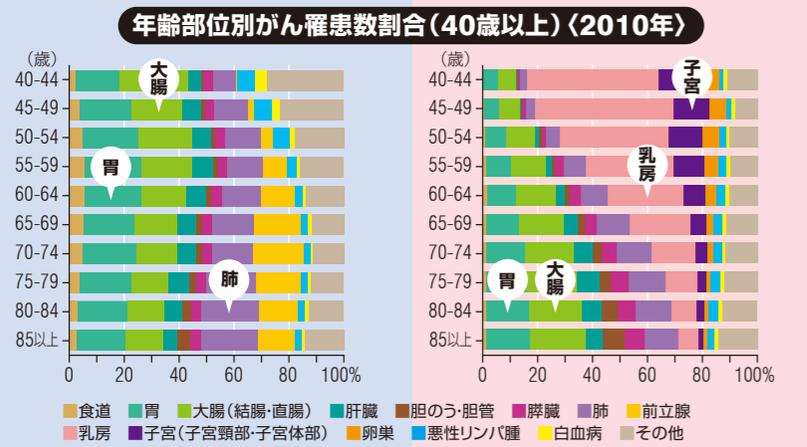
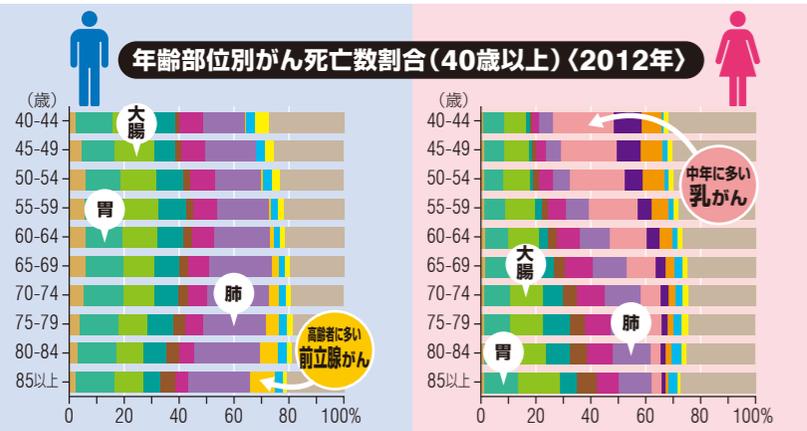
増え、女性は中年で乳がんや子宮がんが圧倒的に多いのですが、高齢になると男性同様に胃がん、大腸がん、肺がんが増えてきます。

早期発見の一言に尽きます

さて、がんは不治の病といわれてきましたが、治療は日々進歩しています。「5年(相対)生存率」という言葉をお聞きになったことがありますか。これは、がんと診断された人のうち、5年後に生存している割合が、日本人全体で5年後に生存している人の割合に比べてどれだけ低いかを表す、すなわち、どのくらい生命

を救えるかを示す指標です。100%に近いほど治療で生命を救えるがん、0%に近いほど治療で生命を救い難いがんであることを意味します。2003年から2005年にがんと診断された人の5年相対生存率は、男性55・4%、女性62・9%でした。やはり、いくら医療が進んでも、がんの治療は難しいのが現状です。

では、どうすればいいのか。それは、早期発見の一言に尽きます。誰しも、病気になるにたくないという願望、病気になるはずがないという自信や信念、病气だと認めたくない否定の気持ちがあります。そこで、提言です。みなさん一度考えてみませんか。



院長からの提言

- 病気になる必要はないが、病気を見逃してはならない。
- 身体からの声(悲鳴)を素直に聞こう。
- 病気を無視してはいけない。
- 病気は早期発見・早期治療が重要。
- 一病を見つけて、上手に病気と向き合おう。

それが、大病をせず、健康な長寿を全うする秘訣である。

がん検診のすすめ

日本人に多い主要5大がん

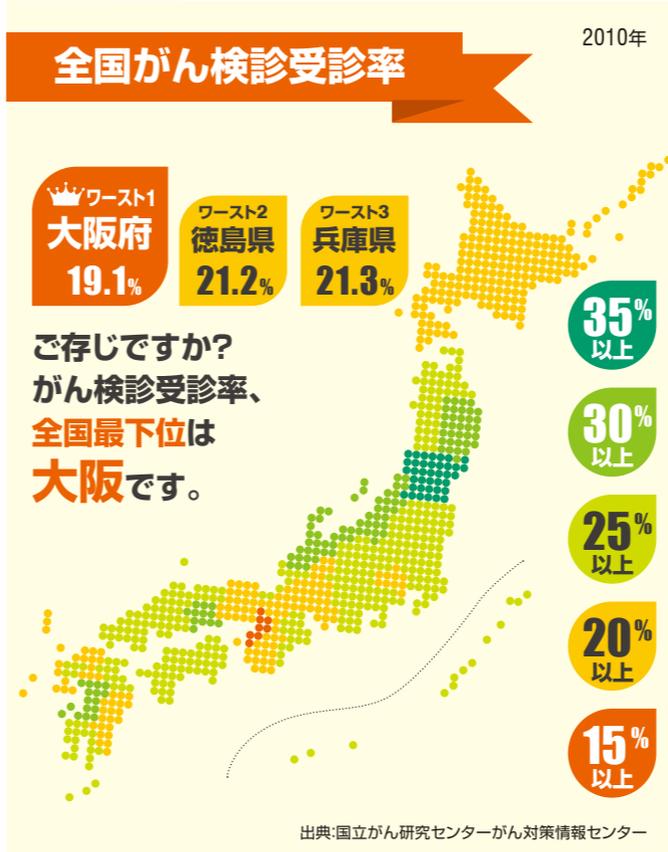
がんとは、がん（乳がん、胃がんなど）や肉腫（骨肉腫など）や白血病など、「悪性腫瘍」の総称です。体のあらゆる場所にできる可能性があります。わが国で患者数が多いのは、肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がんなど。この5つを「主要5大がん」と呼んでいます。これらは、がん検診の効果が科学的に証明されているとして、厚生労働省が検診を推奨しているがんでもあります。

主要5大がんの死亡者数を見てみると、最も多いのが肺がんで、年間約7万人の方が亡くなっています。2番目が胃がんで、年間約5万人。3番目が大腸がんで、こちらも年間約5万人。次いで乳がんの年間約1万人。そして子宮がんの年間約6千人と続きます。残念ながら、実に多くの方が、がんで亡くなられています。肺がんや胃がんが多く、乳がんや子宮がんが少ないので、男性の罹患率が高い印象を持たれるかもしれませんが、実際は働き盛りの女性にがんが多く、現役世代では女性のがん患者数が男性を上回っています。

早期がんで治療すれば 約9割が治癒

がんは大きくなる過程で、早期・進行・末期の3段階および進行度（ステージ）で示されます。がん細胞が分裂を繰り返して増殖していく過程で、その大きさや広がり、転移などの状態が判断されます。胃がんの場合、早期がんで治療をすれば5年後に生きている確立は90〜95%、進行がんから治療をして5年後に生きている確立は約50%、と統計に表れています。がんが全身に

転移すると、全身状態が悪化し、治療もできない状態に陥り、死亡率は極めて高くなります。他のがんについても、ほぼ同じことがいえます。つまり、早期がんで治療を始めれば、9割方が治療する見込みがあるのです。ただし、早期がんは、ほとんど自覚症状のない場合が多く、何かおかしいかと思って病院へ行ったときには、すでに進行がんかもしれないかもしれません。がん検診は、確かに100%がんを発見できるわけではありませんが、早期発見・早期治療のためには、定期的ながん検診を受ける以外に方法はないでしょう。



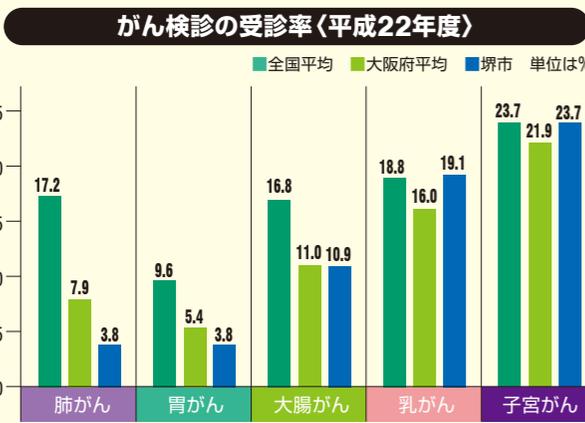
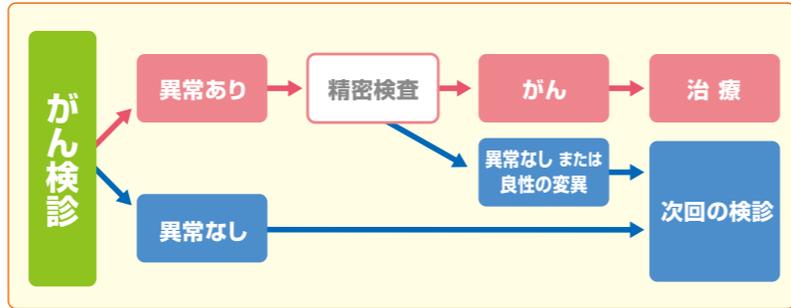
堺市のがん検診の受診率は全国最低水準

大阪府におけるがん検診の受診率は、実は極めて低い状況にあります。平成22年度のデータを見ますと、肺がん検診の受診率は全国平均が17.2%に対して大阪府平均が7.9%、堺市平均が3.8%です。胃がん検診の受診率は全国平均が9.6%に対して大阪府平均が5.4%、堺市平均が3.8%です。大腸がん検診の受診率は全国平均が16.8%に対して大阪府平均が11.0%、堺市平均が10.9%です。乳がん検診の受診率は全国平均が18.8%に対して大阪府平均が16.0%、堺市平均が19.1%です。子宮がん検診の受診率は全国平均が23.7%に対して大阪府平均が21.9%、堺市平均が23.7%です。そして、堺市の肺がん検診および胃がん検診の受診率はともに3.8%で、大阪府平均をも大きく下回っています。精密検査受診率でも堺市は、大腸がん、子宮がんの受診率が全国最下位。肺がん、胃がん、乳がんの受診率も下位という状況

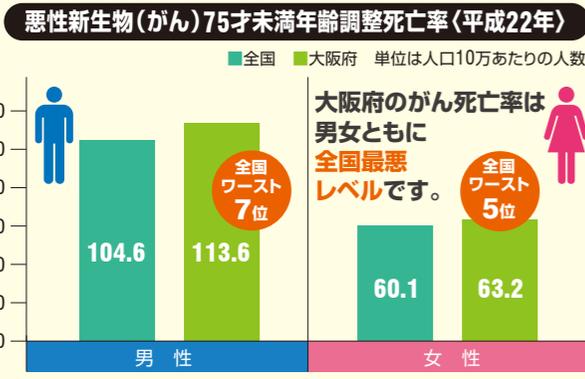
です。がん検診の受診率が低いということは、がんを早期発見する確立が低いということになります。発見が遅れると、治療する可能性が低下します。わが国の死因の第1位であるがんは、堺市の死因の第1位でもあり、年間約2500人の方が、がんで命を落とされています。

堺市では、平日、土・日曜を含めた同一日または1カ月以内に複数のがん検診（肺、胃、大腸、乳房、子宮）をまとめて受診できる「総合がん検診」という制度を実施しており、清恵会病院はその実施医療機関に指定されています。（詳しくは次ページ）

がん検診の流れ



出典:厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」



出典:国立がん研究センターがん対策情報センター



近畿大学医学部
上部消化管外科特任教授
清恵会病院 外科顧問
古河 洋

大阪大学医学部卒業。日本外科学会外科専門医・指導医ほか資格多数。がん治療認定医。胃がんの外科治療、消化管がんの化学療法を専門に大阪府立成人病センター第一外科部長、大阪大学臨床教授、市立堺病院院長など要職を歴任。

医心 伝心

医の最前線から
第十七回



今西 政仁

清恵会病院 副院長・腎センター長

1978年、大阪市立大学医学部卒業。1982年、同大学大学院医学研究科博士課程修了。1983年に大阪赤十字病院内科医。国立循環器病センター、大阪市立総合医療センター腎センター・臨床研究センター総合診療科 部長および大阪市立大学医学部臨床教授等を経て、2014年から現職。

日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会認定専門医・指導医、日本透析医学会認定専門医・指導医、日本高血圧学会認定高血圧専門医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本医師会認定産業医。

仕事にやりがいと楽しさを——

腎臓要といひます

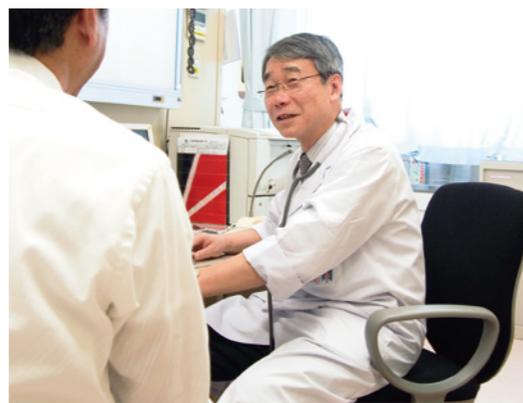
私の専門は腎臓病、高血圧です。体内の異物や老廃物を体外へ捨てる役割を持つ臓器は肝臓と腎臓で、呼吸からも排出するという意味では肺も入ります。肝臓は解毒の機能を有し、腎臓は体液の恒常性を保つ役割を担います。血液（赤血球）が不足してきたら、それを察知して赤血球をつくれと命令するのも腎臓です（実際に血液をつくるのは骨髄）。「肝心要（肝腎要）かんじんかなめ」といいますね。

社会の高齢化とともに糖尿病・高血圧・肥満など生活習慣病が増加し、これらの疾患に由来する慢性腎臓病も急増しています。慢性腎臓病から末期腎不全に陥り、透析療法を受ける患者数は日本で30万人を突破しました。慢性腎臓病は冠動脈疾患や心不

全あるいは脳卒中との深い関連も示されていますので、患者さんのクオリティオブライフ（QOL…生活の質）はもちろん、医療費の視点からも、慢性腎臓病の発症と進行の抑制に貢献したいと願っています。

研究成果を患者さんに還元

医療に携わる者は、診療だけでなく研究もすべきだと思います。研究は大学病院や研究所だけのものではありません。民間の病院だからこそできる研究もたくさんあります。日常の診療から生まれるさまざまな疑問、例えば「高齢の患者ではなぜ転倒リスクが高いのか」など、一見当たり前のことが研究の第一歩になるのです。これらの疑問を解決することが実際の臨床に役立ち、結果的に患者



さんのためにもなるのです。看護職から事務職まで、医療に携わるすべての者にとって、診療レベルを上げようとする事、それが「研究」になるということです。やりがいと楽しさがなくては仕事とはいえません。これが私の考え方です。もちろん私も仕事一辺倒ではありませんよ。休みの日には映画を見にいたり、小旅行に出かけたり。1泊2日ほどで英気を養い、また仕事に戻ります。

清恵会病院のがん検診

当院は、堺市の総合がん検診（肺、胃、大腸、乳房、子宮）および大腸がん、乳がん、子宮がんの検診実施機関です。

堺市「総合がん検診」の検査項目と内容

- 肺がん……胸部エックス線検査・喀痰検査（一部の方）
- 胃がん……胃部エックス線検査（バリウム）
- 大腸がん…便潜血反応検査（便に微量の血液が混じっていないかを検査）
- 乳がん……視触診、マンモグラフィ（乳房エックス線撮影）
- 子宮がん…子宮頸部の細胞診（綿棒などで子宮頸部をこすって採取した細胞を顕微鏡で検査）



▲マンモグラフィは女性技師が担当



▲胸部エックス線検査

◎市のがん検診以外に、人間ドックもあります。人間ドックは2コースあり、一方はがんの検査である腫瘍マーカー検査（採血）を含みます。

◎二次検診（精密検査）では、CT、MRI、内視鏡検査（上部消化管、大腸）、組織を採取して行う細胞診検査などを実施し、がんの有無を積極的に精査します。

一般的な健康診断（血液検査、尿検査など）では、がんの早期発見はできません。また、「通院中で血の検査もしているから」と安心するのは誤りです。前述のがんを見つけ出す検査とは異なるからです。

検診を受けるには——

市区町村が住民を対象に行っており、高額なものではありません。住民票のある市区町村の役所の窓口へ問い合わせるか、ホームページをご覧ください。堺市民の方でしたら、もちろん当院へお電話ください。

お気軽に
お電話ください



清恵会病院
☎072-251-8199(代)

堺市の総合がん検診の料金		40歳以上の市民が対象	
性別・年齢	男性	奇数年齢の女性	偶数年齢の女性
検診項目	3つ（肺・胃・大腸がん）		5つ（肺・胃・大腸・子宮・乳がん）
自己負担額	1,500～1,900円		2,900～3,300円

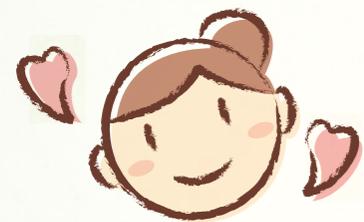
※個別の各がん検診の料金は、無料（年齢による）～900円です。

※今年度すでに各がん検診を受診している場合、同年度に総合がん検診の申し込みはできません。

詳細は堺市ホームページをご確認ください。

堺市ホームページから2014年6月現在

子宮がん検診については、本紙13ページもご覧ください。



ナース・フェイス Nurse Face

私の看護、私の思い



住田 真実

清恵会病院 西5階病棟 看護師
2011年4月入職

憧れの看護師をめざして
私が所属している西5階病棟は、整形外科と形成外科の病棟です。主に骨折や手指切断の再接着、褥瘡(床ずれ)、熱傷(やけど)などの患者さんが多く入院されています。元気に生活していた人が、事故などで急にベッド上で安静を余儀なくされると、ご本人はもとよりご家族にも大きな戸惑いや不安が生じるものです。そんなつらいお気持ち少しでも軽減できるように看護を心掛けています。

看護師の仕事は毎日忙しく、もちろん夜勤もあり、つい弱音をはきたくなる時もあります。憧れの看護師をめざして、私が所属している西5階病棟は、整形外科と形成外科の病棟です。主に骨折や手指切断の再接着、褥瘡(床ずれ)、熱傷(やけど)などの患者さんが多く入院されています。元気に生活していた人が、事故などで急にベッド上で安静を余儀なくされると、ご本人はもとよりご家族にも大きな戸惑いや不安が生じるものです。そんなつらいお気持ち少しでも軽減できるように看護を心掛けています。

憧れの看護師をめざして

2. 極超短波療法(マイクロ波)

機器から出力されるマイクロ波が体内組織を透過するときに分子が振動したり回転することによって摩擦熱を生じ、筋組織で最も温熱作用をもたらします。

医療用に用いられるマイクロ波は、周波数2.450MHzのものを使用した温熱療法です。家庭用の電子レンジと同様に、マイクロ波は強力な電磁波を出しているため、心臓ペースメーカーや輸液ポンプに影響(誤作動など)が生じないように、治療を始める前には入念に周囲を確認します。



実験 真空管の実験

①マイクロ波は真空管を光らせます。写真は、ピンクに光っている部分からマイクロ波が出ていますが距離が遠くて届かず、光っていません。



②少し近づけると…光りました!



人体には マイクロを照射(照射距離)

人体にあてるときの距離は、握りこぶし一つ分が目安です。皮膚の表面よりも内部が温かくなります。



クローズアップ!

清恵会の仕事見せます

理学療法士 北川 真実子

理学療法士 谷脇 正規

vol.4 理学療法科「物理療法の特性」

理学療法科では、身体に障害のある患者様の運動機能の回復などを目的としたリハビリテーションを行います。

今回は、体を動かしたり、関節の痛みを和らげる運動療法の前処置として行う「物理療法の特性」について、「見える化」実験と合わせてご紹介します。

1. 超音波療法

腹部エコーと同様に、超音波機器のヘッド部分を皮膚の表面につけて、ゆっくりと円を描きながら体に振動を伝えて組織を温めます。機器から出力されるエネルギーは機械的振動で、振動が体に伝わることによって熱エネルギーに変換されます。その温熱作用が体内組織の代謝を活性化したり、伸張性を増大させたりします。



実験

ヘッドの水滴蒸発

超音波を最大出力にしてヘッドに水を落とすと、水は振動のエネルギーを受けて霧状になります(超音波式加湿器と同じ)。



人体には

超音波を照射

人体に使うときの出力は、水面が振動でほのかに揺れる程度です。皮膚の表面よりも内部が温かくなります。



地域医療ネットワーク

清恵会病院と共に地域の医療を支え合う
医院・クリニックをご紹介します。



乳児の健診から高齢者の内科疾患まで

宮崎医院

堺市東区野尻町293-5

☎072-288-3939

- 診療科目／内科、循環器内科、小児科
- 診療時間／月・火・水・金曜 9:00～12:00・16:00～19:00
※小児科は午後18:00まで、土曜 9:00～13:00
- 休診日／木曜、日曜、祝祭日
- 開院年／2005年



病診連携による早期診断・早期治療を实践

久保整形外科クリニック

堺市北区中長尾町2-1-21

☎072-258-3565

- 診療科目／整形外科、麻酔科、リウマチ科、リハビリテーション科
- 診療時間／9:00～12:00、16:00～19:00(木曜・土曜は午前のみ)
- 休診日／日曜、祝祭日
- 開院年／1993年



整形外科からリハビリまで 幅広く対応

院長である私の専門は関節疾患で、クリニックでは関節疾患、脊椎疾患を中心に診察・治療しています。受診される患者さんは、小児や高齢者の外傷、膝関節疾患、股関節疾患の方などが比較的多く見られます。当クリニックにおける迅速な対応はもちろん、病院と診療所が連携する「病診連携」により、早期診断・早期治療が可能な体制を整えています。

高齢者が突然の痛みで起立や歩行が困難となる骨粗鬆症による不全骨折にも対応いたします。レントゲン検査ではわからない骨盤の骨折や膝関節の周囲の骨折などもMRIで診断できます。また、エコー検査では腫瘍、筋肉や腱の損傷などを診断することが可能です。リハビリテーションについても、さらなる充実化を図っているところです。常に最新の知見を取り入れた医療を目指しています。

患者様の声を 大切に医療を

「The Clinical Approach to the Patient (Morgan and Engel)」と云う、1969年出版された本があります。その一節を、大阪大学名誉教授である小野啓郎先生が翻訳されました。患

納得していただける治療を

今年の夏で、開院から8年半になります。院長である私は心臓内科医で、高血圧をはじめ心不全や不整脈などの心臓病、そして内科疾患全般を担当。小児科医である妻は、乳児から中学生までのお子さんの診療を担当しています。乳児後期健診や各種予防接種なども行っていますので、お気軽にご相談ください。

来院されるのは近隣にお住まいの方々が中心です。そのため、必要に応じて繰り返し来院していただだけます。患者さんのお話をよく拝聴し、治療効果を共に確認し、納得していただくことが大切だと考えています。特別な検査や入院治療が必要な場合は、清恵会病院をはじめ、希望される病院を手配しますのでご安心ください。

清恵会との関わり

昭和40年代前半、内科の開業医だったわが家にも夜間救急患者が頻繁に搬送されてきました。内科の病気だけでなく、打撲や外傷の患者さんまでも。しかし、昭和45年、清恵会病院の開設以来、わが家への救急搬送はなくなり、静かな夜が訪れました。



▲院長の久保雅敬先生と看護師スタッフのお二人

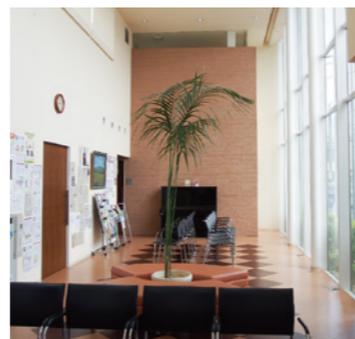


▲診察室に飾っている医師の心構えの一節

者さんの訴えに謙虚に耳を傾けなさいと、医師の心構えを説いたものです。これを肝に銘じて、当クリニックでも、患者様の声を大切に医療をいつも心掛けています。

清恵会との関わり

清恵会病院は、救急や診断が困難な患者様の受け入れ、MRI、CTなどの検査などにスピーディーに対応していただいております。日頃から連携体制を整えて、患者様に最適と思われる診療・治療を行っています。



▲田舎の飛行場の搭乗口をイメージした、明るく開放的な待合口コピー。

父は常々、創設者の故佐野恵生や職員の皆様への感謝を口にしていました。あれから44年、今も救急診療に快く応じていただいています。

私は昭和59年に研修医となり、清恵会病院・循環器内科の故川井信義先生に週一度ご指導をいただく機会がありました。先生は多くの外来患者を診察され、重症心臓病の集中治療室(CCU)を開設され、急性心筋梗塞や重症心不全の患者さんを献身的に治療されてきました。その尊敬すべき真摯な姿勢と伝統を循環器内科現部長の澁谷敏行先生が引き継がれ、本当に心強く思っています。

- 院長 宮崎俊夫(内科・循環器内科)
日本循環器学会循環器専門医、日本内科学会認定医
- 医師 宮崎裕美(小児科)
日本小児科学会小児科専門医



第1看護学科 37期生
金田 孝宏

学生

平日の平均的なスケジュール



祖母が階段から落ち、頭から出血したとき、自分は何もできませんでした。医療知識のあった両親が素早く対応したのを見て、自分もあんなふうになりたいと思ったのが、看護師を志すきっかけでした。

現在、看護師になるための専門的な勉強をしています。高校とはまったく違います。高校では、板書された内容を写すだけだったり、出された課題をこなすだけでしたが、今は、必要なことを自分でまとめ、疑問に思ったことを自分で調べて、自らどんどん前に進んでいかなくてはなりません。勉強量もかなりのもの。好きな授業は病理学です。どんな原因でどんな症状が現れるかということが分かり、興味深く勉強しています。

クラスメートとは毎日楽しく過ごしていますよ。皆が同じ目標を持っているので、助け合い、刺激し合っています。先生方とのコミュニケーションも良く、私たちをしっかりサポートしてくださっていると感じます。

同じ目標を持つ仲間とともに

学生たちの未来 先生たちの今

清恵会グループには、二つの医療専門学院があります。夢と希望と決意を胸に、明日の医療界を目指して毎日頑張っている学生たちがたくさんいます。その学生たちをサポートする先生たちもまた、情熱と愛情と使命感に溢れています。そんな学生と先生の学院生活をご紹介します。

教員としてのやりがいは、「ああそうか、わかった」という学生たちの嬉しそうな顔を見ること。勉強や行事に一生懸命になって取り組んでいる学生たちの姿を見ることが。若者たちの成長を目の当たりにすると、楽しく幸せな気持ちになります。若いっていいな、と感じますね。看護師になるという志を持って毎日頑張っているみんなにエールを送ります。

私のモットーは、楽しく明るく、くよくよしないこと。人生どうにもならないことなんてそうはないと思いますし、人生のすべてが経験で、勉強です。学生たちと一緒に、これからも楽しんでいきます。

若い頃から何度か教員のお誘いがありましたが、時間的な制約などで、なかなか挑戦することができませんでした。その後、介護職の方に教育・指導をする機会がありました。やっているうちに物足りなさを感じたのです。理由は、介護の先の看護という分野に踏み込めなかったから。私は看護師ですから、やはり看護師を志す後輩たちに何かを伝えたい。そう考え、教員になって現在に至ります。

学生たちとの関わりは、深すぎず、浅すぎず。その、さじ加減が難しいのですけれど。私は、清恵会医療専門学院の卒業生ではありませんが、学生とはもちろん、教員同士もアットホームな雰囲気です。

頑張っているみんなにエールを



先生

第1看護学科 専任教員
古川 由起子

生活に寄りそう 訪問リハビリテーション



清恵会三宝病院介護事業部では、平成24年12月より、訪問リハビリテーションを行っています。訪問リハビリとは、介護認定を受けられた方を対象に、ご自宅へ理学療法士や作業療法士が訪問してリハビリを実践する介護保険サービスです。現在、理学療法士2名・作業療法士1名のスタッフで運営しています。

訪問リハビリでは、生活や身体に関する具体的な悩みをお聞きします。例えば、「押入れ整理をしていたら肩が重くなった」「背信



号の間に渡り切れなかった」など。このような悩みは、「住み慣れた場所です。今まで通りの生活をした」という利用者様の意欲や自主性の表れだと感じています。訪問リハビリの大きな役割は、利用者様の挑戦する気持ちを大切に、心と体が適応できるようにお手伝いをすることです。

体調の不安を訴える利用者様には、血圧・体温測定、内服、食事、排泄の状況確認など、各種の健康チェックも行い異変があれば早期に発見できるように心掛けています。

また、「介護で眠れない」など、ご家族からのご相談もあります。私たちがご自宅へ訪問した際には介護状況を確認し、ご家族の不安や悩み事も解決できるよう努めております。

当院から退院後に訪問リハビリを開始するときは、入院担当の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士から利用者様の様子を詳しく聞いて引き継ぎを行います。今までは違う身体での生活に利用者様は困惑され、ご家族も不安ながらに利用者様を迎えられます。利用者様とご家族の不安を少しでも早く軽減できるよう、清恵会グループ内の病院と介護事業部というメリットを生かして迅速な連携を図り、効果的な訪問リハビリを提供したいと考えています。

最後に、私は訪問リハビリに携わり、作業療法士として生活を考える視野が広がりました。利用者様とご家族がご自宅での「自分らしい生活」を実現できるよう、役割をしっかりと果せる作業療法士を目指して、これからも頑張っています。

介護事業部 作業療法士
衣川 美弥子



腎センター長の今西副院長(前列右から二人目)とチームを組む臨床工学科のスタッフ。透析療法に加え、家族性高脂血症、急性肝不全や潰瘍性大腸炎など消化器疾患、多発性硬化症やギランバレー症候群(神経疾患)などに対し、血漿交換療法を含む特殊血液浄化療法もできる体制をとっています。

4月に新たな診療部門として発足しました。慢性腎臓病の原因となる腎疾患や高血圧・糖尿病などに由来する腎障害を、初期から慢性期、そして末期腎不全まで総合的に診療することを目的にしています。

初期の蛋白尿に対する診断や治療、腎不全の保存期の治療、そして透析療法導入まで幅広い診療を行います。特に腎不全の保存期の治療については、透析療法導入をできる限り遅らせるべく、高血圧・貧血・電解質異常などの治療・管理(食事指導を含む)に力を注いでいます。

来年の新病院への移転に向けて発足したばかりの部門であり、診療の充実・発展を図っているところです。

Topics

腎センターを開設しました

Topics

公式フェイスブックを始めました



<https://www.facebook.com/seikeikai.or.jp>



4月1日に社会医療法人清恵会の公式フェイスブックページを開設しました。法人の各施設で取り組んでいる活動や行事、その他さまざまな出来事をご紹介します。

これまでにご紹介した内容は、クリニックの防災訓練、新入職員の歓迎会、第二医療専門学院の学年対抗ソフトボール大会などまさにさまざま！真面目な話題からほのぼのとした話題まで、これからもジャンルを問わず載せてまいりますので、ぜひ一度のぞいて見てください！

閉経の平均年齢は？

日本女性の閉経(月経が止まること)の平均年齢は**50～51歳**です。それまで女性らしい体型づくりや乳房の発達、月経・排卵、妊娠・出産などで重要な働きをして、女性の身体を守ってきたエストロゲン(卵胞ホルモン)とプロゲステロン(黄体ホルモン)の分泌がなくなり、大きな変化が見られるようになります。40代から少しずつ変化が表れ、更年期障害が起こることもあります。

- ほてり、のぼせ、顔面紅潮、めまい、いらいら等、60歳頃まで症状が続くことも。
- 骨粗鬆症や動脈硬化、高脂血症なども起こりやすく、髪や肌の潤いも変化する。
- 膣の粘膜や子宮内膜にも変化が見られ、萎縮性膣炎(老人性膣炎)や子宮内膜炎、子宮体がんも増加傾向。



閉経後に出血やおりものがあっても良性の膣炎であることが多いのですが、症状だけでは判断できませんので必ず受診するようにしてください。逆に女性ホルモンによって大きくなっていった子宮筋腫や子宮内膜症は、閉経後には小さくなって症状もなくなり、多くの場合、治療を必要としなくなります。子宮頸がんは最近特に若い人に多いのですが、高齢者にも増える傾向が見られます。また、骨盤の筋肉などが緩んでくるため、尿失禁や子宮脱、膀胱脱、膣脱などの病気も増加します。一人で悩んでおられる方も多いようです。



命に関わるのは子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなどの悪性腫瘍。子宮頸がんは出血がないうちに進行することがあり、卵巣がんも初期には症状が出にくく発見が遅れがちな病気。婦人科のがんは早期発見・早期治療すれば多くの場合、比較的簡単な手術で完治します。しかし、ほんの少し発見が遅れると大手術になり、術後にもつらい症状が残ることがしばしばあります。

☀️ 検診のすすめ

現在、各市町村で子宮がんの公費検診が行われています(20歳以上の市民、偶数年齢ごとに1回)。堺市では、費用は64歳までの方は500円、66歳以上の方は無料です。奇数年齢の方も前年に受けていなければ、保健センターに連絡の上、同様に受けることができます。



更年期障害はホルモン剤や漢方薬で症状が改善することも多いので、症状が辛い方は気軽に相談してください。

更年期障害ではなく内科的な疾患の場合もあるので、「おかしい」と思ったら診察を。

健康と美容のワンポイント! アドバイス

～その5～

「50歳からの婦人科の病気」

清恵会病院 婦人科部長
天川 一郎



清恵会グループのご紹介

清恵会病院

急性期機能病院

〒590-0024 堺市堺区向陵中町4丁2番10号

清恵会向陵クリニック

人工透析外来

〒590-0024 堺市堺区向陵中町6丁2番11号

清恵会三国丘クリニック

専門外来【予約制】

〒590-0024 堺市堺区向陵中町6丁4番10号

清恵会本部

〒590-0024 堺市堺区向陵中町4丁4番4号

いずれも ☎ 072-251-8199(代)

清恵会訪問看護ステーション

訪問看護・訪問リハビリテーション

〒590-0024 堺市堺区向陵中町4丁4番4号

☎ 072-257-6074

清恵会医療専門学校

看護師・准看護師養成校

〒591-8031 堺市北区百舌鳥梅北町2丁83番地

☎ 072-259-3901

清恵会第二医療専門学校

理学療法士・診療放射線技師養成校

〒590-0026 堺市堺区向陵西町4丁5番9号

☎ 072-222-6226

清恵会三宝病院

複合型慢性期機能病院

〒590-0903 堺市堺区松屋町1丁4番地の1

☎ 072-226-8131(代)

さんさんデイケア三宝

通所リハビリテーション

〒590-0903 堺市堺区松屋町1丁4番地の1

きらきら訪問リハ三宝

訪問リハビリテーション

清恵会三宝病院 介護事業部

☎ 072-225-0066

ケアプラス(照恵商事株式会社)

居宅介護支援・訪問介護・福祉用具貸与

〒590-0024 堺市堺区向陵中町6丁6番25号 神田ビル2階

☎ 072-259-4622

清恵会グループの
WEBサイトもご覧ください



<http://www.seikeikai.or.jp>

清恵会 検索

堺市・三国ヶ丘エリア



堺市・三宝エリア

